



患者がつくった  
透析のほん

## はじめての透析③ 透析導入入院と日常生活

### 目次

①透析のしくみ	3
②透析患者さんの定期検査	6
③透析の合併症	9
④透析患者さんと薬	13
⑤しっかり透析を知る	16
⑥透析と出張や旅行／透析と災害	17
⑦透析中の過ごし方	19
⑧医療者と良好なコミュニケーションを築くために	21
⑨患者会・患者団体	23

## ⑧医療者と良好なコミュニケーションを築くために



深川先生

宿野部



この「患者がつくった透析のほん」の監修、東海大学医学部腎内分泌代謝内科教授の深川雅史先生とじんラボ所長の宿野部との対談です。

深川先生は腎疾患および慢性腎不全の治療に長年携わっていらっしやいます。宿野部は透析歴30年以上の透析患者、ベテラン同士の中身の濃い対談となりました。

**宿野部**：透析導入時はとにかく不安で、透析が何なのかさえも理解していませんでした。忙しそうにしている医師に自分の体調の変化を伝えることもままなりません。

**体調の変化はしっかり伝えましょう。**

**深川先生**：「透析とはどんな医療なのか」が医療者からの説明が不十分な場合は確かに不安ですね。透析の時、毎回同じ医師が担当するとも限らず、遠慮もあるかもしれませんが、体調の変化を伝えないと何も始まりません。

**宿野部**：医師には透析がちゃんとできる体調なのかを優先して伝えるようにしています。でも、スタッフ間の情報共有に不安を感じています。

**施設の事情も考慮しつつ、医療者ときちん向き合しましょう。**

**深川先生**：施設の規模やスタッフの構成によって情報共有や申し送りがうまくいってない場合もあります。お任せばかりにせず、きちん共有されているか患者さんから意識的に確認しましょう。

**宿野部**：血圧手帳やお薬手帳は、自己管理目的のほか、その記録を客観的に事実として伝えるために活用できますね。災害時にも有効です。

**データや記録から自分の治療を理解することは、安心につながります。**

深川先生：記録に困りごとを追記して伝えるとさらに良いですね。患者さんが自分の検査値と透析記録を見ながら治療の理由を理解することは可能だと考えています。その必要性が理解できると安心できますよ。

**宿野部**：患者は、自己管理ができていないことを隠してしまいがちです。

**問題解決のために素直に話してください、一緒に考えましょう。**

深川先生：自己管理できていたか以外にも、食べたものなども率直に話してください。行いが「ちゃんと有効だったか」までを患者と医師が一緒に考えなければ、問題解決とはなりません。

**宿野部**：不快な症状や困ったことを伝えるコツを教えてください。

**医療者としては「いつから」「どのように」「どう変化しているか」という情報を教えて欲しいですね。**

深川先生：主観によることを伝える場合は、まず書き出し、優先順位をつけて話してください。その症状が「いつから」「どのように」「どう変化しているか、その変化は急激なのかゆっくりなのか」「一回だけなのか、継続的・複数回なのか」が大切な情報です。同じ検査値の変化でも違った意味になります。

**宿野部**：透析医療に対する思いをお話してください。

**医療者と患者、言いたいことを言い合える関係に。それがより良い治療の選択につながり、患者さんの元気が医療者にとっても喜びです。**

深川先生：治療の選択も、患者さんの元気も、医療者と患者が良好なコミュニケーションの上で成し遂げられると思います。お互いに一人の人間だという前提に立ち、言いたいことを言い合える関係を築きましょう。

東海大学 深川雅史教授×じんラボ所長 宿野部の対談

**医療者と良好なコミュニケーションを築くために**

[https://www.jinlab.jp/support/basic\\_23fukagawa\\_talk1.html](https://www.jinlab.jp/support/basic_23fukagawa_talk1.html)

